

# 寿司は日本の宝

職人の技でできる、その名は寿司。寿司は昔から人々の心を驚掴みにしてきた。そんな寿司の素晴らしさを皆さんはどのくらい知っているだろう。これから寿司の素晴らしいところを紹介していく。

## 寿司は体に良い

魚の脂に多く含まれる不飽和脂肪酸である。『DHA』(ドコサヘキサエン酸)は、コレステロールを抑えたり、脳の働きを良くする効果がある。これらの栄養素は、ブリやアジ、イワシ、サバ、サンマ、カツオ、サケ、マグロなどに多く含まれる。だからこの魚たちを食べていた日本人たちは健康でいられたのだろう。



## 寿司職人への険しい道のり

り

左の写真を見てみよう。中、高卒業後、大学専門学校で「調理師」、「専門調理師・調理技能士」の資格を持っていると就職に有利だが、どちらも実務経験が受験資格に必要な。つまり長い間寿司の修行をしなければならない。だから美味しい寿司を作る職人は昔から代々受け継がれている。

## 寿司には種類が豊富

寿司には握り寿司、巻き寿司、手巻き寿司など色々な種類がある。他にも軍艦、いなり寿司、棒寿司、チラシ寿司、押し寿司、がある。だから皆の好みにあった寿司が食べられるのが実に素晴らしい。

このように寿司には体に良い事や、寿司の種類が豊富、寿司職人への道のり、そして受け継がれてきた伝統、いろいろなものを背負っている。だから寿司は日本の宝だ。

参考<https://junglewood.xyz/life/types-of-sushi/>  
<https://nipponnowaza.com/>

## 花火の楽しさ

花火は毎年夏に見るものだ。家族や友達と見て楽しむ。そしてたくさんの人が綺麗、と  
思い、年々来る人が増えていく。そんな身近にある花火について今から説明しよう。



### 家族や友達と見る楽しさ

花火は家族や友達で見て楽しめる行事だ。そして子供だけでなく、大人もお年寄りの誰でも楽しめるという魅力がある。見ても楽しめて誰でも楽しめる、こんなに素晴らしいものは花火しかない。

### 花火の種類

花火には様々な種類や形がある。右の写真に写っているのは、割り物とポカ物。他にもいろんな花火の形がある。そして、いろんな形があることによっていろんな人が楽しめ、笑顔になる。



### 花火を見る楽しさ

このように花火はたくさんの人々を笑顔にして感動させている。そしてたくさんの人々の思い出をつくってきた。小さい子供からお年寄りの方までたくさんの人を楽しませてきた。だから花火は日本の誰でも楽しめる文化なのだ。

参考

題名,和の技術花火 発行者,川元行雄 発行所,株式会社文溪堂

## 「日本の大切な花火」

花火は祭りなどでよく見るものだ。そしていろいろな人に「きれい」とか「すごい」などと思わせてきた。みなさんは花火をどれくらい大切に思っているだろうか。今から花火の大切さを紹介したいと思う。



## 盛り上げられる花火

左の写真を見てみよう。友達とみんなで花火の写真を撮っているように見える。花火はみんなで見るほど楽しめる。だから祭りでも花火を打ち上げると盛り上がる。

## やることも楽しい花火

花火にはいろいろな種類がある。祭りなどである打ち上げ花火だけではない、線香花火もだ。打ち上げ花火はみんなで見ると楽しむものだが、線香花火はみんなでやるのが楽しい。花火は家の近くや、祭りなどで楽しめるものだ。だから花火はすばらしい。



## 花火のすごい歴史

花火は約450年前から存在していたという。当時は、花火が武器として使われていた。初めて花火を見たことが記録されている。しかし、江戸時代に入ってから花火が観賞用として使われるようになった。はるか昔から現在まで受け継がれているのは奇跡としか思えない。

花火ははるか昔から現在まで受け継がれてきた。受け継がれてきた理由は昔から人々に感動を与えてきたからだと考える。花火はみんなを楽しませ、感動を与える文化だと思う。だから花火は日本の大切な文化だ。

参考 題名: 子供に伝えたい和の技術 花火 発行者: 川元行雄 発行者: 株式会社文溪堂

## 獅子舞の姿

がぶりっ。わっ食べられた。お正月のちょっと肌寒い中、神社の外は大勢の人でにぎわっている。外には獅子舞という動物がいる。その獅子舞がたくさんの人の頭を一。

皆さん、この右の写真の神様を知っているだろうか。これは「獅子舞」という名の神様だ。

## 健康

獅子舞とは、獅子舞は先程の文にも書いた通り、神様だ。この獅子舞は悪魔払いや疫病退治を願って舞われた。その歴史から獅子舞はお正月やお祭りなど縁起の良い日に舞われることが多く、幸せを招くものだと考えられている。この獅子舞は皆の健康のためにあると考えられる。

## ゴロゴロ合わせ

私が特に思ったことは、獅子舞がたくさんの人の頭を**噛み付いている**ことだ。

なぜ噛みつくか皆さんは知っているだろうか。

その理由は語呂合わせをしているからだ。どういふことかという

「噛みつく」という言葉が「神が付く」を連想させる、ということで、語呂合わせからも縁起が良いとされ、獅子舞は古くから日本で愛されてきたのだ。私は実に面白いと思った。語呂合わせでできていたとは思ひもしなかったからだ。ぜひ皆さんも獅子舞に噛みつかれてみたらどうだろうか。

## 大切な歴史

獅子舞は元々中国から伝わってきたものだ。古くは今から1400年前以上から存在しており当時は飛鳥時代だったそうだ。最初は沖縄から始まったそうだ。確かに沖縄の「シーサー」に似てなくもなさそうだ。でも今から1400年も前の文化が今も存在し続けていることが一番の驚きである。

獅子舞は1400年も昔から今に受け継がれ存在し続けている。あんなにも語呂合わせや魅力的な文化は少ないと思う。その獅子舞の姿には心を引かれる。だから獅子舞は日本の伝統である貴重な宝なのだ。

参考 [ワゴコロ https://wa-gokoro.jp](https://wa-gokoro.jp) > [伝統芸能 photoAc シーサーの写真素材](#)



# 出雲石燈籠

みんなは燈籠を知っているかい。日本には色々な燈籠がある。その中で庭に馴染みやすい燈籠、それは出雲石燈籠。さあ神社に置いてあるイメージの出雲石燈籠の魅力を紹介しよう。



## 出雲石燈籠の材料

左の写真を見てごらん。石を切り出しているように見えるだろう。この石は出雲石燈籠の材料の来待石。外国で来待石は見られない。この来待石は日本だけの出雲石燈籠に使われる石なのだ。

## 出雲石燈籠の秘密

この左の写真は来待石で作った、出雲石燈籠だ。この出雲石燈籠は庭によく馴染んでいる。なぜ庭に馴染むのか気になるだろう。なぜ庭に馴染むのか教えよう。来待石は水を含みやすくして自然にこけがつく。これが庭に馴染む出雲石燈籠の秘密なのだ。



## 日本だけの技術

右の写真を見てみよう。これも出雲石燈籠の一つだ。この出雲石燈籠は外国で室内などにインテリアとして人気なのだ。そしてこの出雲石燈籠の技術は外国にも誇れるものだ。

出雲石燈籠は昔から作られている。そして江戸時代に本格的に発展した。そして神社や庭などにおいてある。だから出雲

石燈籠は庭園の宝なのだ。

参考

日本の伝統工芸のみりよく5家具と仏壇

発行者 千葉 均

発行所 株式会社ポプラ社